



## 人権コラム 47回 「見えないバリアが見える時」

新年度になり早くも3か月が経ちました。新生活にも慣れてきたころではないでしょうか。

数年前の私事の話で恐縮ですが、運動不足がたたったのか腰を酷く痛め、杖をついていた時期がありました。立つ・座る・歩く等あらゆる動作に痛みを伴う日々を送っておりました。こうなると通勤が大変になります。私は電車通勤なのですが、特に駅の階段が大きな障壁(バリア)となりました。上りもさることながら下りも体重が痛めた腰にかかるため、とにかく階段を使うことが億劫になります。仕方なくエレベーターを利用するのですが、階段を使った方がルートとしては速い上に、他の利用者による待ち時間などでタイムロスが生じてしまいます。階段を使えないことがこんなにも不便なのかと身を以て痛感しました。また少し愚痴になりますが、当時の私は杖とコルセットと湿布で対処していたので、見た目は杖をついている人くらいでしかありません。そのせいなのか電車でスマホを見る人が多いせいなのか電車で席を譲ってくれる人はいませんでした。例えばギプスをしていれば気にかけてもらえたのか…そんなことを思いながら、他人との心の障壁(バリア)を感じておりました。もっとも席を譲られたとしても姿勢を変える方が痛みが増すので立ったままでよかったのですが…。

私の場合は2～3週間で治りましたので心の障壁はともかく、階段は障壁(バリア)ではなくなりました。しかし、病気やケガ等で日常的に杖や車椅子が必要な方はどうでしょうか。私が障壁(バリア)と感じた事象に囲まれて日々を過ごされているのではと思われます。施設によっては階段があったとしてもスロープやエレベーターがありますし、駅での電車の乗り降りでも駅員がスロープを置いたり、バリアフリーの取組は至る所で見受けられるようになりましたが、100%カバーするというのはなかなか難しいでしょう。また誰も杖や車椅子を使うことになる可能性があります。高齢化だけでなく、スポーツや交通事故等での骨折等があり決して縁遠い話ではありません。普段何気なく利用している場所を見返すことで今まで見逃していた障壁(バリア)が見えてくるかもしれません。

物理的なバリアフリーは個人ではどうにもできませんが、個人でもできるバリアフリーがあります。それは「心のバリアフリー」と呼ばれ、障壁(バリア)を感じている人の身になって考え、行動を起こすことです。「〇〇しましょうか?」「何かできることはありますか?」とお声がけをする。この一言でお困りごとを解決できるかもしれません。今のご時世ではなかなか他人に声をかけるのは勇気がいると思います。自分でやりたい方やこちらが思うより自分でできる方もいるため、何が何でも声掛けをする必要はなく、助けを求めるように周りを見渡したり、車椅子で段差に登れない等明らかに支障をきたしているような「困っているサイン」が出ている場合だけでもよいかと思います。例えば電車で目の前に杖を持って立っている人はかつての私のように座った方が腰が痛むという事情をお持ちかもしれませんので…。

